

A portrait of Herbert Blomstedt, an elderly man with white hair, wearing a black tuxedo and a white bow tie. He is looking slightly to the right with a gentle expression.

Herbert Blomstedt

A portrait of Michiyoshi Inoue, a bald man with a wide smile, wearing a black tuxedo and a patterned bow tie. His arms are raised in a celebratory gesture.

Michiyoshi Inoue

A profile portrait of Fabio Luisi, a man with grey hair and glasses, wearing a dark suit and a white bow tie. He is looking towards the left.

Fabio Luisi

1997年に「N響ベスト・コンサート」として始まって以来、今回で24回目を迎える「最も心に残ったN響コンサート&ソリスト」。新型コロナウイルス感染症拡大の影響下で、2020年、2021年と2年続けて実施を見合わせておりましたが、今回から定期公演のシーズンに合わせる形で再開いたします。

2022-23シーズン(2022年9月~2023年6月)の定期公演から、演奏をお聴きになったみなさまに投票をお願いし、今回は過去最多の900近くの票が集まりました。みなさまの思い出がどのように順位に反映されているでしょうか。投票にご参加いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

N響 コンサート & ソリスト 2022-23

最も心に残った

A portrait of Paavo Järvi, a man with a shaved head, wearing a black tuxedo and a white bow tie. He is captured in a dynamic pose, holding a baton and gesturing with his other hand.

Paavo Järvi

A portrait of Gianandrea Noseda, a man with short hair, wearing a black tuxedo and a white bow tie. He is looking upwards with an expressive, open-mouthed face.

Gianandrea Noseda

A portrait of Tugan Sokhiev, a man with dark hair, wearing a black tuxedo and a white bow tie. He is smiling and gesturing with his hands.

Tugan Sokhiev

最も心に残った

N響コンサート 2022-23

第1位 | 10月Aプロ | 第1965回
2022年10月15、16日

マーラー／交響曲 第9番 ニ長調

ヘルベルト・ブロムシュテット(指揮)



ブロムシュテットさんとN響の長年の信頼の上に奏でられた唯一無二の音楽でした。両者ともに献身的でかつ妥協を許さない演奏から、マーラーの靈感のようなものさを感じました。生涯忘れることのない演奏会です。(谷原秀典)

ラジオで2回聴いて、さらにテレビ放送も視聴しましたが、それでも感動しました！ブロムシュテットとマーラーの相性がすばらしく良かった。思わず呼吸を止めて聴いてしまうような名演でした。断トツ1位です！(山田華子)

最も好きな曲を、ブロムシュテット指揮で聴くことが出来た奇跡的公演。最後の音が消えてからのNHKホールの長い沈黙とTVで視聴した時のブロムシュテットの涙が忘れられない。(川村伸一)

ブロムシュテットさんが来日してくれて本当にうれしかったのと、N響のみなさんが彼の音楽を一粒も漏らさないように演奏している、その音楽の渦に呑み込まれた気がしたからです。マーラーの曲は自然の奏でる音をイメージしますが、この日の演奏は宇宙の音という気がしました。(あぶりる)

N響定期会員1年目の初心者の中には、マーラーを聴くにはまだ早いと思っていましたが、とても感激しました。高齢のマエストロの渾身の指揮にもとても心打たれ、涙が止まらないほどでした。定期会員になって、すばらしい曲に出会えて感謝です。(spica)

小さい頃から何度も聞いても分からない曲ですが、この演奏を聞いていた時ふわっと体が浮く感覚がしたのを覚えています。今もまだ理解できそうにはないですが、ブロムシュテットさんの演奏をもっと聞きたいと強く思いました。(おかゆ)

ホールに入る前から張りつめた緊張感が漂い、マエストロが現れた瞬間からホール全体がひとつになり演奏に集中した稀有の体験。稀代の名演。(二本柳啓文)

マエストロの^{こんしん}渾身の指揮、生命力^{あふ}溢れる音楽に文字通り魂が揺さぶられた。カーテンコールはまさに一幅の名画のような光景で到底涙を堪えることができなかった。(田口俊明)

第2位 | 11月Aプロ | 第1968回 2022年11月12、13日

伊福部 昭／シンフォニア・タブカーラ

ショスタコーヴィチ／交響曲 第10番 ホ短調 作品93

井上道義(指揮)



指揮者井上道義^{みちよし}渾身のショスタコーヴィチ。引退表明には驚き残念な思いですが、この演奏会も忘れ難い思い出となりました。(ナカダテミヤ)

井上マエストロの真骨頂、狂気を垣間見た記憶に残る公演でした。特に伊福部さんの量みかけるオスティナートを一心不乱に奏でる楽員の姿(特に横島さん)がいまだ忘れられません!(阪本 健)

実際に聴きに行って、井上氏の踊るような指揮を目の前にできたことに加え、初めて聞く《シンフォニア・タブカーラ》の圧倒的な音圧とリズムに心を強く揺さぶられたから。(眞鍋 元)

マエストロ井上の音楽人生を凝縮したプログラムでした。私も定年を2024年春に迎えるので感慨深かったです。(倉田郁雄)

第3位 | 9月Aプロ | 第1962回 2022年9月10、11日

ヴェルディ／レクイエム

ファビオ・ルイーゼ(指揮) ヒブラ・ゲルズマーワ(ソプラノ) オレシア・ベトロヴァ(メゾ・ソプラノ)

ルネ・バルベラ(テノール) ヨン・グァンチョル(バス) 新国立劇場合唱団(合唱)



ファビオ・ルイーゼさんの情熱、培ってこられた信用と人脈、幅の広いレパートリー、そしてNHK交響楽団との信頼関係、観客の熱気、すべてが表現されたすばらしい演奏会でした。(渡辺徹郎)

ルイーゼさんの首席指揮者就任コンサート。何よりも指揮者とオーケストラの共感、一体感が感じられる演奏だったのが、明るい未来を予感させるようでうれしかった。(松下脩司)

第4位 | 4月Aプロ | 第1980回 2023年4月15、16日

R. シュトラウス／「ヨセフの伝説」から交響的断章、アルプス交響曲 作品64

パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)



N響のみなさんとアルプス登山をしたような気分になりました。特にオーボエの吉村さんのソロが雄大でパーヴォさんがほとんど棒を振らなかったところがとても印象に残りました。(堀田直美)

久しぶりのパーヴォ×N響、ダイレクトに五感を刺激するトゥッティのサウンドに懐かしさを感じました。3度目の正直でついに実現した《アルペン》を経てさらに熟成する両者の関係を今後も見つめていきたいと感じた一夜でした。(ボルケーノ男爵)

第5位 | 6月Cプロ | 第1987回 2023年6月16、17日

ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65

ジャンドレ・ノセダ(指揮)



こんなに心を驚嘆みにされる曲だったとは。皆さんの演奏もすばらしくて、活躍の場もたくさんあってより心に染みました。私の大好きな打楽器チームの皆さんも最高にかっこ良かったです。(たんごろう)

指揮者とオーケストラが渾然一体となったすばらしい演奏でした。弦楽の厚みと強さがすごかった。木管、金管の奏者たちの妙技もすばしかったです。ノセダの気迫と集中力が作曲者が表現したかった戦争の悲惨と民衆の慟哭(どうく)を見事に描ききっていました。(平川一喜)

第6位 | 1月Bプロ | 第1976回 2023年1月25、26日

バルトーク／ヴァイオラ協奏曲(シェリイ版)

ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番

ドビュッシー／交響詩「海」

トウガン・ソヒエフ(指揮) アミハイ・グロス(ヴァイオラ)



久々登場のソヒエフでしたが、魔法のようなタクトで魅了し、N響も相思相愛の見事な演奏で応えたすばらしいコンサートでした。(木村 靖)

《ダフニスとクロエ》、美しすぎる夜明けからコーダのダンスへの流れには興奮しました。(峯 俊策)

バルトーク《ヴァイオラ協奏曲》を拝聴する機会は減多になく、楽器の魅力が最大限に楽しめました。ありがとうございました♪(大塚仁子)

第7位 | 1月Cプロ | 第1975回 | 2023年1月20、21日
ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7
チャイコフスキー／交響曲 第1番 ト短調 作品13
「冬の日の幻想」
トウガン・ソヒエフ(指揮)

第8位 | 5月Bプロ | 第1985回 | 2023年5月24、25日
ハイドン／交響曲 第32番 ハ長調 Hob. I-32「くま」
モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447
ベートーヴェン／交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」
ファビオ・ルイージ(指揮) 福川伸陽(ホルン)

第9位 | 12月Bプロ | 第1973回 | 2022年12月14、15日
グリンカ／歌劇「ルスランとリエドミラ」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95
「新世界から」
ファビオ・ルイージ(指揮) 河村尚子(ピアノ)

第10位 | 2月Cプロ | 第1978回 | 2023年2月10、11日
バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」から
シンフォニック・ダンス
ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45
ヤクブ・フルジャ(指揮)

ソリスト2022-23

第1位 | 5月Cプロ | 第1984回
2023年5月19、20日

パスカル・ロジェ (ピアノ)

サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」



アンコールのサティも絶品。(TN)
荒々しい力強さと静寂感漂う「音のコントラスト」の独特な世界感に感動しました。(コジマサナエ)

サン・サーンスの《ピアノ協奏曲第5番「エジプト風」》は初めて聴く曲でしたが、繊細かつ確かな技術で紡ぎ出される音がすばらしかったです。ロジェ氏のファンになりました。(橋本まや)

フランス音楽を知りつくし、得意とするロジェのピアノ演奏がすばらしかった。ピアノとオーケストラの掛け合いが絶妙で、今でも心に深く残っている。またN響でロジェのフランス物を扱ってほしい。(Yohmi. h)

若手のピアニストを聞く機会が多い昨今、ベテランの円熟の演奏、流石です。(とーちゃんろ)

第2位 | 5月Bプロ | 第1985回
2023年5月24、25日

福川伸陽 (ホルン)

モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447



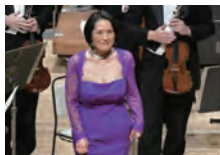
福川伸陽さんのホルンの音に憧れたからです。私もホルンを吹いている高校3年生なのですが、福川さんの豊かで、うっとりしてしまうような音色に憧れています。(平野優斗)

古巣に舞い戻ってくれた氏の水を得た魚のように生き生きとした音楽表現、ホルンという制約を全くものともしない驚異の技術と音楽性に、改めて感動しました。またの登場を心待ちにしています。(ひら)

第3位 | 12月Aプロ | 第1971回
2022年12月3、4日

藤村実穂子 (メゾ・ソプラノ)

ワーグナー／ウェーゼンドンクの5つの詩



藤村実穂子さんの《ウェーゼンドンク》、本当にすばらしかったです。どんなに繊細な弱音部であっても、言葉ひとつひとつに想いが込められた藤村さんの歌声。大きなNHKホールの3階席でしっかり受け止めました。(にこみ)

藤村さんの安定した歌声により、瞬間に作品世界にひきこまれました。(中塚尚子)

第4位
6月Bプロ | 第1988回
2023年6月21、22日
庄司紗矢香 (ヴァイオリン)
レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲

第5位
12月Bプロ | 第1973回
2022年12月14、15日
河村尚子 (ピアノ)
ラフマニノフ／
ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

第6位
6月Aプロ | 第1986回
2023年6月10、11日
ベフゾド・アブドゥライモフ (ピアノ)
プロコフィエフ／
ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16

投票を通じて寄せられたみなさまの声

N響は亡くなった父が好きで、名曲アルバムのカセットテープやレコードが小さい頃から家にあり、よく聴きました。今でもN響のサウンドがなんとなく落ち着くのは父の影響かも。(まあちゃん)

子どもの頃からテレビで拝見しておりましたが、大学生の頃からたびたび会場に足を運ぶようになり、今年ついに定期会員です。N響が大好きです！これからも応援しています！（のぐちえいこ）

Cプロの前の室内楽、とてもすばらしい試みで大拍手です。メンバー一人ひとりの距離が縮まった気がして、ますますN響が好きになりました。(鶏ガラ)

ルイージさんが首席になってから、音がしなやかで、美しくなった！（岡本信一）

幼少期からユースチケットですばらしい演奏をたくさん聴かせていただきました。まさに「N響の音で育った」と言っても過言ではありません。昨年春に26歳になりユースチケットを卒業したので恩返しのため2022-23シーズンよりABC定期会員になりました。今季もN響の演奏会を楽しみにしております。(GauGau)

いまYouTubeでやっている楽員がほかの楽器を体験する企画がおもしろいのでシリーズ化してほしい。練習中のショート動画を出してほしい。もっと楽員の方について知りたい。(までいたん)

ABCのすべてのコンサートを妻と一緒に行っていただけた、彼女は癌で足を運べなくなってしまいました。ひとりで聞きに行きながら、空いた彼女の席を見ながら、彼女の分まで耳をそばだてて聞いては、感想を彼女に伝えていました。(柳 径太)

これまでひとりで通っていた定期公演に、2022-2023シーズンから、家内、そして娘をユースチケットを利用して参加させました。これにより、「ひとりだけで楽しんでいる……」という家庭内での煩わしさから解放され、本当にホッとしています。(大谷正彦)

マーラー《9番》の終楽章でブロムシュテット先生が涙を流しながら指揮していたね、と終演の拍手をしながら相方さんに話しかけようと隣を振り向いたらブロムシュテット先生の何十倍も号泣してグシャグシャになっていました。すばらしい演奏会でした。(フィガロ)

コロナ禍でしばらくNHKホールに足を運んでいなかったのですが、昨年久しぶりに上京。いつもの原宿駅で降りようとする……あれ？ 駅舎が様変わり。一瞬間違えて降りたのかと焦りました。東京という街のあり方を感じました。(しーもん)

今シーズン、初めて年間定期会員でN響の定期公演を聴きました。コロナの制約を乗り越えてNHKホールで生の演奏を毎回聴けたことは、本当に「大満足！」でした。(阿部直子)

招聘してほしい指揮者 ベスト5

- ① シャルル・デュトワ
- ② クラウス・マケラ
- ③ サイモン・ラトル
- ④ トウガン・ソヒエフ
- ⑤ パーヴォ・ヤルヴィ

招聘してほしいソリスト ベスト5

- ① ヒラリー・ハーン
- ② 藤田真央
ユジャ・ワン
- ④ 五嶋みどり
- ⑤ マルタ・アルゲリッチ